

愛のある音楽心を伝えたいS・ヤイリギター

楽器を生み出すことは、

ひとつひとつに作る人間の魂をこめること。

いつもS・ヤイリはそう考え続けてきました。

その職人達のギターにかける愛情が

S・ヤイリの透明であたたかい音をつくりあげるのです。

1本のギターは1人の職人の手で作られる

S・ヤイリはギターに魅せられた1人の男の手によって始められました。「機械で出来るものならばそれでよい。しかし木の質や気候の変化によって削り変わる。機械にはそれが出来ない。」その頑固なまでの確信がS・ヤイリです。今でもそれは変わりません。1本のギターは材料の選定から完了まで、ギターを愛す1人の職人によって作られます。

プロに愛されるギターをS・ヤイリはそう考えています。

作られたギターは音色、バランスそして仕上がりで幾度かのチェックを経て初めてS・ヤイリの名が刻まれます。楽器を愛す心に妥協はありません。ギター作りのプロからプロの音楽家へ、S・ヤイリが信頼の名と言われるゆえんです。

S・ヤイリは無期限保証です。

ギターは弾くほどに味の出る楽器。S・ヤイリはいつまでも弾きこめるギターを考えています。1本1本丹念に作られたギター、それは当然狂うことなくあるべきです。(S・YAIRI)の名はそのようなギターにのみ与えられます。S・ヤイリは無期限保証、信頼の名の証です。



YD-303 ¥70,000

表板：スプルース単板
裏板：ハカランダ
側板：ハカランダ
ネック：マホガニー
指板：黒たん
駒・ピン：黒たん
糸巻：ヤイリ
弦：ダルコメディアムゲージ

YD-302 ¥60,000

表板：スプルース単板
裏板：ローズウッド
側板：ローズウッド
ネック：マホガニー
指板：黒たん
駒・ピン：黒たん
糸巻：ヤイリ
弦：ダルコメディアムゲージ

アクセサリーは飾りではありません。

ボディがいくらよくてもアクセサリーがなければ良いサウンドは出にくいもの。それにデザインをこわすようなものは許しがたいものです。マシンヘッドからエンドピンまで選びぬかれる。S・ヤイリの信念が買われます。



M6 ¥10,000 (1セット)

M6G ¥12,000 (1セット)

YD-304、YD-404に装備されているクローム仕上げのM6、YD-303～YD-308に装備されているゴールド仕上げのM6Gとも、品質、信頼性で定評のドイツ・シャラー社製ロートマッチック・タイプのマシン・ヘッドです。密閉されたギヤー部分にはグリスが入っていて、ほとんど調整は不要です。

S・ヤイリ指定のカポタストはすべてUSA・ジム・ダンロップ社製で、写真の2種の他に700F ¥400、700S ¥700、1100C ¥700、1500C ¥1,100、1600C ¥2,000があります。

フォークやウェスタンには不可欠のピック。楽器の特質と合わせてピックもまた音色に大きく影響してきます。

サムピック ¥120



フィンガーピック ¥120



ナイロンピック ¥80



S・ヤイリは、ギタリストに最高の音色を奏しんでもらうために、ピックには品質で定評あるUSA・ジム・ダンロップ社製を指定しています。

もちろんのことエンドピンはチューニングのカナメです。楽器に合ったピンが必要なのは言うまでもありません。

S・ヤイリのエンドピンは固く美しい光沢をもつ黒檀製です。

S120 ¥1,200

カポタストも又重要です。ギターの高や材質に合わせて一番ベストなものを選ぶことを忘れないで下さい。



1400C ¥1,100

722D ¥1,100

G1100(ライトゲージ) ¥1,200
G1200(メディアム) ¥1,200



弦はギターの音色に大きな影響を与えますが、S・ヤイリギターを良い音で鳴らすのには、USA製S・ヤイリの弦が最上のはずです。

ケースはギターの傷だけでなく湿度の調整役でもあります。ケースにもまた厳重なチェックをS・ヤイリが行います。

SY-1 ¥10,000



SY-2 ¥15,000



ギターはデリケートな楽器です。そして繊細なほど美しい音色を出すことは言うまでもありません。S・ヤイリもそうなのです。

愛用は毎日の手入れが必要ですよ。

演奏しない時、何ヶ月もならば別ですが、いちいち弦をゆるめる必要はありません。弦をゆるめたり張ったりするとかえってネックに悪影響を与えることとなります。ふだんの手入れはシリコンクロスで空ぶき、1週間に1度は専用ワックスで磨いて下さい。シンナーやアルコール、ベンジンは塗装を傷つける恐れがあります。これは見ばえだけでなくギターの大敵、湿気のバランスを崩すことにもなるのです。

湿気には充分の配慮を。

ギター作りはまず材木の選定からです。きびしい名工の目によって選ばれた材木は3年前後の自然乾燥の後人工乾燥で湿気をおいだします。板の中の僅かな水分は音の振動を妨げてしまうからです。

ですからギターは乾燥した風通しの良い所に置き直射日光を避けて下さい。ケースの中には乾燥剤、逆に乾燥しすぎの時は湿ったタオルを入れるという手もあります。毎日弾いて下さい。板を毎日振動させて水分を蒸発させることこそ最も重要、弾くほどに味の出ることなのです。

